

「好きな仕事」へたとり着けない人たちへ、
日本一の「雨漏り職人」からメッセージ

「皆が嫌がる仕事ほど、 誰でも稼げるチャンスが あるんです！」

新たなチャンスは、必ず今の仕事の中にある。
シンプルにして目からウロコの「仕事発見術」！

撮影／本田雄士

喜んでもらえる。
自分も成長できる

人生を再スタートさせたい。だけれど自分の好きな仕事になかなか就けない。あるいは、自分がどんな仕事を好きなのか、自分でもわからない。――（実はとても多いはずの）そんな人たちに、唐鎌さんのメッセージは、「発想の大転換」をもたらしてくれるはずだ。彼は日本一の「雨漏り職人」として業界で知られる存在だ。が、

そもその話だけど、「雨漏り」って今でもそんなにたくさん起きている話なの？

「公的な統計を見ても、リフォーム後のトラブルで最も多いのは、毎年、雨漏りです。戸建て、ビルに限らず、壁に吹きつけた雨が建物の内部に染み込んでくるケースが多いのですが、これはどんな建物でも起こり得る話なんです」

唐鎌さんはもともと外壁クリーニング屋さんだった。ビルの壁にぶら下がって窓を拭いている、あの方たちである。その仕事をして

いて、雨漏りの相談をされるのが非常に多いことに驚いた。理由を調べると、例えば4階の壁から染み込んだ水が2階の天井から漏れるなど、雨漏りはその原因を特定することが極めて難しく、業者にとっても手間がかかる割に儲からない仕事として、多くが放置されていることを知る。建設業界で皆が面倒くさがって放置している「嫌われ仕事」……これは新しい商売のチャンスだと唐鎌さんは考えた。しかし、皆が嫌がるだけ

あつて、やはり「完全な修理」は容易じゃなかった。彼は必死で設計・構造に関する専門書を読みあさった。18歳のときに家出同然で上京し、歌舞伎町のパチンコ店や佐川急便で働き、佐川時代の先輩に誘われて外壁クリーニング業に就いた唐鎌さんには当然、建築の専門知識などなかった。「あんなに勉強をしたのは、人生で初めてでした（笑）。でも、「自分に何が足りないのか」をわかっていると、学習能力つてものすごい

唐鎌謙二 KARAKAMA KENJI

1966年生まれ、鹿児島県出身。日本外装株式会社代表取締役、NPO法人雨漏り診断士協会専務理事。年間300棟以上の雨漏り物件にたずさわる。2005年に雨漏り職人ネットワーク「雨漏り110番グループ」設立。著書に「自分を磨く「嫌われ仕事」の法則」（経済界）



「嫌われ仕事」の法則

- 1、「嫌われ仕事」だから市場があいている
- 2、「嫌われ仕事」だから人に感謝される
- 3、「嫌われ仕事」は自分を成長させる
- 4、「嫌われ仕事」に個人や小さな会社は強い

く上がるものなんですよね」

豊富な現場経験と、最新の構造知識を組み合わせ、彼は大手ゼネコンでも直せなかった雨漏りを次々と修理。「雨漏りハンター」という評判を獲得していった。

「誰かがやらねばならないのに、皆が嫌がって手つかずでいる「嫌われ仕事」は、価格競争も起きにくいし、30人以下の小さな会社でも始められる。という小さな会社ほど向いている。何より、お客さんから本当に感謝していただけて、自分自身も成長できる。」

私が外壁クリーニングの仕事で雨漏りの仕事を見つけたように、そんな「嫌われ仕事」は、必ず皆さんの仕事のなかにも何かあるはず。それを見つけ、解決法を考えていけば、誰でも必ず、新たなチャンスに出会えます」